

通信文化の変遷—ネットの功罪—

楠歯会会長 中尾 薫

言語表現の体裁は、毛筆からインクペン、鉛筆、ボールペンそしてワープロ書き、さらにネット通信へと目まぐるしく変化してきた。毛筆からメールまで、約100年。飛脚、郵便、ファックス、メールまで150年？ファックスが登場し、ほとんどの方々が使われるようになるまでに、凡そ15年ぐらいはかかっただろうか。ネットが普及して、まだわずか5年ぐらいだろう。この通信文化の変遷に戸惑っておられる方々は少なくない。会社・学校・役所・医療・等等、パソコンが無ければすでに成り立たない状況である。我々医療においても身近な所では、レセコンが挙げられる。兵庫県下歯科医療機関のレセプトの70数%がすでにレセコンとなっている。平成23年には全てのレセプトをオンライン提出すべく今般の医療制度大綱で謳われている。ネットがどうであれ、俺は手書きで行く！と、思われ、そのようになさっていても何ら問題は生じない筈であったが、オンライン化ということが、国民的普遍的な努力義務となろうとしている現今、IT というものに無縁である人々は、ある種、弱者となる可能

性を秘めている。いわんや、医療従事者はIT弱者ではあり得なく、御上もそのように位置づけされているのである。さてさて困った状況となってきた。

伝統文化は普遍性があり、子々孫々受け継がれていくべきものである。かたや、科学文化は確実・着実に変化を遂げる。通信手段としてのネットは現代科学の産物であり、その功罪が巷様々問われているが、やがて全国民に定着するだろうし、その後また新たな手段方法も開発される。大切なことは、まずパソコンに触れること、デジタル化に慣れ親しむことと思う。忌み嫌っていても問題は解決しない。体験した上で、従来 of 筆文化を選択されるのは大いに結構なことである。食わず嫌いは、楽しみの幅を狭めてしまうことでもある。話し言葉、文章形態も時代によって大きく変遷してきた。戦前の堅苦しい漢字とカタカナ混じりの文章を読んで、難解で読めないと嘆く必要はない。その当時時代の普遍性として認知されていたからだし、現代文化を反映した文章も、やがて未来の方々にとっては随分と難解なものに映る筈である。

いつの時代も我々のようなロートルは、昔を懐かしみ今を懐疑的に思うもののようなのであるが、新旧対話が楠歯会の真骨頂である。今後とも、古きを大切に、進取の気性に富む活動を心して育んでいきたい。

歴代会長座談会余話

六代目楠歯会会長 中尾 薫

驚いた。本号掲載の座談会で、歴代会長のお話をお伺いしながら、強烈なインパクトを受け、余話として記しておかねばならないと思った。

楠歯会会長は、初代 木村栄一先生・二代 大矢 先生・三代 吉田欣也先生・四代 佐藤莞爾先生・五代 古田 巖先生・六代 私と続いている。この度の座談会では、木村先生は静養中とのことで、ご参加は叶わなかった。大矢先生はご逝去。今回は、吉田・佐藤・古田・中尾歴代会長での座談会となった。重岡専務の司会で進行がなされた。古田前会長は私の7期先輩だが、入局当時鬼の外来医長としてご薫陶を受けたので云わば同じ釜の飯を食った。佐藤前々会長は、当時、週一回の輪読会の指導に医局にいられていましたし、矯正外来でも指導教官として厳しく扱われた。吉田元会長とは、同じ接点を持っていなかったが、昭和30年前半の状況をお聞かせいただき、ガックツと頭頂部に閃光が走った。県立病院・大学の時代、歯科医の置かれた立場を切々と語られた。入院患者と職員の歯の治療だけをしてもらえばよろしいという立場を病院内では取られており、その後、教室となるまでの黎明期のお話を拝聴。「あったら便利やけど、無くて困らへん。院内の理容室みたいなもんやな〜。」愕然とした現実があったこと、そして当時の医局員の並々ならぬご努力で今日を迎えることが出来たこと。

医学部と歯学部の歴史はほぼ同じくするが、口腔外科の歴史そして、医学部での口腔外の歴史は古い話ではなさそうだ。旧六大学歯学部が昭和20年代前半まで続いた。同時に医学部での歯科口腔外科が教室・講座として、現在の隆盛を築いたのは、つい最近のことである。先人の苦悩と屈辱をお聞きし、今日の私共は誠に有難いことと心より感謝を申し上げる次第である。

歴史を検証するということは、こういうことなのかと、大きな感動を覚えた。現役会長として心して先達のお言葉への感銘をそのまま、今後の楠歯会運用に活かして行かねばならない。吉田欣也先生御指摘の楠歯会としての生涯研修に全精力を傾注なさいというお言葉を肝に銘じたい。

私が開業した折、初代部長世良先生の御葬儀の際、初代楠歯会会長木村栄一先生がさりげなく私の側に寄り、「君も開業して大変やろ〜けど、石の上にも三年や、3年経ったら何とかなるヨ〜！」と激励いただいた。木村先生はお忘れだろうが、この言葉が私の当時の励みとなった。今のような過当競争時代ではなかったが、それでも新規開業は不安の毎日であった。新旧楠歯会会員の交流が、その方の人生の大きな礎となる事実を感謝申し上げ、今回の座談会余話総括とさせていただきます。